

「異世界もの」の英語表現に関する考察

佐々木 隆

Research on the English Expressions on “Isekai”

SASAKI Takashi

キーワード：異世界、転生、転移、ファンタジー、英語表現

プロローグ

筆者は「異世界」について「「異世界」を考える」(佐々木a 1-7)、「「異世界」を巡って：ライトノベルを意識して」(佐々木b 1-104)、「英語になった「異世界」」(佐々木c 27-42)で考察しているが、本稿では「異世界」に相当する英語についてさらに取り上げる。2024年3月には英語になった日本語として*Oxford English Dictionary* (以降、*OED*と略す)にも“isekai”が掲載されたが、英語表現ではどのように定義されているのか、また、どのように受け留められているのかを本稿では考察する。

1 「異世界」とは

英語表現における「異世界」を考察する前に、「異世界」とはどのように受けとめられているのかをまずはっきりさせておく必要がある。民俗学事典などでは「異世界」の見出し語はないが、「異界」はある。「人間が周囲の世界を分類する際、自分(たち)が属する(と認識する)世界の外側の世界」(内田 8)など、妖怪や幽霊が住む世界から「内部社会の成員とは異なる外見や風俗習慣を持つ人間」(内田 8)は異人であり、その異人の住む世界は異界である。かぐや姫は月から来た異人であり、浦島太郎は竜宮城という異世界への訪問者となり、帰還するなどの話もある。こうしたジャンルは広く捉えればファンタジーである。タイムリープで移動した世界、行けそうもない秘境、宇宙の果てや惑星もまた異世界と捉えた時代もある。さらに、核戦争後の世界、人間が退化した世界なども異世界として捉えることもできる。こうした捉え方は現実の世界とは異なるという点が重要なのである。ポップカルチャー系の定義では以下のようなものがある。

自分たちが暮らす世界＝現実世界とは異なる時空や世界のこと。現実でいえば夢や空想の世界^①。

「現実世界」とは異なる、かかわりのない世界。物理的に一切つながりが無く、移動手段も確立されていない世界を指します^②。

我々もしくは登場人物が、本来所属する世界から「今でもここでもない」見知らぬ場所に放逐された先。魔法や超テクノロジーが発展していたり、倫理や常識が異なっていることが多い。そこで活躍して勇者となったり、志半ばで果てたり、元の世界に戻ってきたりするが、どれが真の幸福かは簡単には決められない（健部 8）。

日本語の一般的な辞書、『大辞林』『大辞泉』『広辞苑』には「異世界」は見出し語（親項目）として採用されていない（佐々木b 1-2）。日本語の他の表現では「別世界」と表現されることもある。「異世界」は広く捉えるとゴシック小説、ファンタジー、SFのジャンルにまたがることもある。現在、ライトノベルでの「異世界」のとらえ方は「異世界もの」として、世界の設定だけを指すのではなく、世界観を示す用語となっていることが主流であり、大別すると、「異世界転生もの」・「異世界転移もの」となる。「異世界転生もの」とは「転生」とあるように「生き返る」あるいは「生き直し」といったことが中心となっており、ある理由で死んだあと、おもに神のような仲介者によって異世界に送り込まれることになる。「異世界転移もの」の場合には生きたまま別の世界に送り込まれる場合、自分の意志で転移する場合、さらには一時的にそこに滞在し、ある一定の期間（例として為すべきことが成就されるまで）が過ぎると再び元の世界に帰還する訪問型の場合がある。最後の事例は浦島太郎が典型的である。世界の表現についてもパラレルワールド（平行世界）などと表現されることもある。

井上乃武は「まったく別の世界」（那須 30）にまぎれ込む設定のある児童文学でも那須正幹『屋根裏の遠い旅』（1975）には「ライトノベル性」があると指摘している（井上 119-133）。「異世界」を書名に用いた初期ファンタジーの高千穂遙『異世界の勇士』（1979）は異世界に足を踏み入れ、勇士（勇者）としての使命を果たすと、また現実世界に戻るという設定になっている。しかしそれは異世界からの召喚という側面もある訪問型のファンタジーである。

2 ファンタジーとしての異世界転生もの

「異世界もの」では異世界という設定が重要である。この場合には広い意味での「異世界」となる。この「異世界もの」の中に「異世界転移もの」と「異世界転生もの」に分かれる（榎本編 a 34, 204, 205-206, 209）。『浦島太郎』や『屋根裏の遠い旅』といった「異世界転移もの」では、『異世界の勇士』のように初期の段階で異世界より魔法等で召喚され、その効力が残り、知らない間に異世界に紛れ込む訪問型のもの、異世界より魔法等で召喚されて、生きたまま異世界に連れて来られるものがある。場合により自らの意志で異世界に移動、または現実世界と往来できることがある。初期の異世界転生ものとしては浜由葵夫・木村明広『聖剣エクスカリバー』（1994）がある。

世界的にも見てもルイス・キャロル (Lewis Carroll. *Alice in Wonderland*, 1865) やフランク・バウム (L. Frank Baum. *The Wonderful Wizard of Oz*, 1900) のように寝ている時の夢の中で冒険するファンタジーとは異なり、一連のJ.R.R.トールキン『ホビットの冒険』(John Ronald Reuel Tolkien. *The Hobbit, or There and Back Again*, 1937)、『指輪物語』(*The Lord of the Rings*, 1954-1955)、C.S.ルイス『ナルニア国物語』(Clive Staples Lewis, *The Chronicles of Narnia*, 1950-1956) はファンタジーを一つのジャンルまで押し上げたものとして高く評価されている（中野・水井・吉井編 21-22）。特にトールキンは架空言語まで創作し、架空世界を構築するなど、その徹底ぶりは類を見ない（井辻 240）。

Today, Tolkien is commonly regarded as the fountainhead of contemporary fantasy fiction (Murfin and Ray 153) .

Franz Rottenstenier. *The Fantasy Book: The Ghostly, the Gothic, the Magical, the Unreal* (1978)はトールキンの描く世界について ‘alternative world’ と表現していることも注目しておきたい。

The essence of fantasy, as it is often understood in English-speaking countries, is to be found in the work of J.R.R.Tolkien (1892-1971), though in fact this type of ‘alternative world’ creation represents only one, albeit a very important, aspect of fantastic literature (Rottensteiner 97).

なお、‘alternative world’ の日本語は「別世界」となっている（ロッテンシュタイナー 126）。ファンタジーではいわゆるアーサー王ものを離れ（Murfin and Ray 151）、特に後者は異世界への訪問型ファンタジーとして、タンスの先の異世界に紛れ込む『ナルニア国物語』はひとつのパターンを作り上げた（Murfin and Ray 151）。英米文学のファンタジーでは異世界転移ものはあるものの、主役が死んだあと、生き返り別の人生を送るような転生もの自体が見られないと言ってもよいかもしい。ジョン・バニヤン『天路歷程』（John Bunyan. *The Pilgrim's Progress from This World, to That Which Is to Come*, 1678-1684）のようにアレゴリーとして描かれる場合もあったが、現在で言う異世界ものの設定とは異なる。

日本のポップカルチャーでの「異世界転生・転移」の定義は以下のようになっている。

異世界ファンタジー作品の舞台である「異世界」は、当然ながら我々の住む現実の世界とは別の世界であり、通常は行き来することはできません（株式会社ライフ 14）。

現実の世界とは別の世界とは、歴史上や世界でもなく、いわゆる全くの架空の世界であるのが一般的な考え方である。

3 「異世界」の英語表現

筆者はかつて「異世界」の英語表現について、英米文学の作品を事例にして次のように指摘した。

英語としての“isekai”は欧米のファンタジーにおける別の世界に移動する“alternative world”あるいは“alternate world”という枠組みもあるが、多くはマーク・トゥェイン『アーサー王宮廷のヤンキー』（Mark Twain. *A Connecticut Yankee in King Arthur's Court*. 1889）に代表されるタイムリープであった。同じようにタイムリープするH. G.ウェルズ『タイム・マシン』（Herbert George Wells. *The Time Machine*. 1895）は科学者として時間を遡る機械を作るという設定があり、このためよくSFの父などとも呼ばれているが、過去にも未来にも移動することができる。『アーサー王宮廷のヤンキー』はそうではないが、発表されたのはトゥェインの方が早いのだ（佐々木b 96-97）。

『アーサー王宮廷のヤンキー』ではタイムリープするのが機械や装置によらないため (Kincaid 819)、SFというよりもファンタジーとして捉える方がよいだろう。

“1889 Mark Twain's *A Connecticut Yankee in King Arthur's Court* breaks new ground in didactic timeslip fantasy (Stableford xxiv).”

『アーサー王宮廷のヤンキー』は異世界ファンタジーの先駆として紹介されることもあるが (山北 2) (榎本編a 205-206) (榎本編b 204)、これはタイムリープ先が異世界という取り扱いになるが、厳密にはタイムリープと異世界ファンタジーは異なる。以下はSFやfantasyの英語辞典を中心に掲載状況を見ておきたい。

(1) Franz Rottensteiner. *The Fantasy Book* (1978)

“alternative worlds” 「別世界の創造」 (Rottensteiner 88) (ロッテンシュタイナー 116) の章が設けられており、その中で “another world-creator” 「別世界譚を創作した作家」 (Rottensteiner 88) (ロッテンシュタイナー 117) との表現がある。

(2) John Clute. *Science Fiction* (1995)

“other worlds” 「異世界」 (Clute 82) (クルート 82) の項目があるが、ここでは宇宙がその世界となっている。“alternate worlds” 「改変世界」 (Clute 62) (クルート 62) は歴史上の出来事を変えることである。“alternate worlds” については次のような解説がある。

Different versions of reality substituted for our own. See also *Parallel Worlds* (Clute 306).

(3) Ross Murfin and Supryia M. Ray. *The Bedford Glossary of Critical and Literary Terms* (2003)

“fantasy fiction” の定義中で “second world” への指摘がある。

There are two basic narrative strategies typical of non-Arthurian fantasy fiction.

The first, exemplified by Lewis, is to have characters shuttle back and forth between a “real” and a fantasy realm. The second, exemplified by Tolkien, is to set stories entirely in a “second world,” one that is separate and different from historical reality, though it may contain familiar elements (Murfin and Ray 153).

トールキンのファンタジーを例にしているが、“separate and different from historical reality” としている点が特徴的である。

(4) Gary Westfahl, editor. *The Greenwood Encyclopedia of Science Fiction and Fantasy* (2005)

Paul Kincaid “alternate history” の見出し語がある。そこでの説明は以下のとおりである。

Overview

Science fiction and fantasy can provide a fascinatingly sideways look at the world we know, and no branch of the genres does this more succinctly than alternate history. Whether presented as satire, utopia, or an academic examination of the malleability of history, alternate history distorts the familiar and makes us question again our world's nature and character (Kincaid 21).

ファンタジーの研究書やファンタジーやSFでの事典では“other worlds” “alternate worlds” “alternative worlds” が取り上げられているが、そこではその世界やその世界の人物に改変が加えられていることが主流である。過去にタイムリープしてその世界を変える、過去の人物の業績を変えるなどの意味である。このためタイムリープものでは未来よりも過去に注目が浴びることになる。これまでの英語表現ではあくまでも世界の設定が問題なのである。

- (5) Jeffrey Prucher, editor. *Brave New Words: The Oxford Dictionary of Science Fiction* (2007)

見出し語について注目していくと、“another world” はないが、“alternate” あるいは“alternative” の形容詞を用いた表現がある。

alternate future n. an ALTERNATIVE FUTURE (Prucher 4)

alternate history n. 1. A timeline that is different from that of our own world, usually extrapolated from the change of a single event; the genre of fiction set in such a time 2. a work in this genre. Compare ALTERNATIVE HISTORSY 2, UCHRONIA (Prucher 4).

alternate reality n. an ALTERNATIVE WORLD (Prucher 4).

alternate universe n. an ALTERNATIVE WORLD (Prucher 5).

alternate world n. an ALTERNATIVE WORLD (Prucher 5).

alternative future n. one of many possible futures; a future that may come about by actions taken while traveling back in time (Prucher 5).

alternative history n. 1. ALTERNATE HISTORY 1. 2. ALTERNATE HISTORY 2. Hence alternative historian, n. Compare UCHIRONIA (Prucher 5-6)

alternative reality n. an ALTERNATIVE WORLD (Prucher 6).

alternative universe n. ALTERNATIVE WORLD (Prucher 6).

alternative world n. one of many possible space-time continua, having a different history or physical laws than our own space-time continuum (Prucher 6).

uchronia

なお、“uchronia” はオンライン版OEDには見出し語として掲載されていない。インターネット上では“Uchronia: The Alternate History List”があり、その“Introduction”の冒頭は以下の通りである。

What is Alternate History?

An alternate history describes a "what if" of history and the consequences that ensue from a different result.

Other names that may apply to the genre include alternative history, allohistory, counterfactuals, if-worlds, uchronia and uchronie, parallel worlds, what-if stories, abwegige geschichten, etc. Whatever it is called, alternate history somehow involves one or more past events that "happened otherwise" and usually includes some amount of description of the subsequent effects on history⁽³⁾.

“alternative world”にしる“alternate history”にしる、おもに過去の歴史を改変する、すなわち過去の人物の行動等を改変するということで我々が知っている歴史的事実を改変した世界を異世界として捉えていることがわかる。

(6) *Oxford English Dictionary* (2024)

2024年3月に*Oxford English Dictionary* (以降、「OED」略す)のオンライン版に日本語の「異世界」が“isekai”として掲載された。単に“another world”でも“different world”でもなく、また、その説明の中では“alternate worlds”や“alternative worlds”などの用語も説明には使用されず、“isekai”として掲載されたことは、日本が生み出したファンタジーの新しいジャンルとして英語圏に認知されたことになろう。その定義は以下の通りである。

A Japanese genre of science or fantasy fiction featuring a protagonist who is transported to or reincarnated in a different, strange, or unfamiliar world. Also: an anime, manga, video game, etc., in this genre. Frequently as a modifier⁽⁴⁾

上記の定義について以下の観点から見ておきたい。

featuring a protagonist 異世界の説明であるが主人公にも注目している。

is transported to or reincarnated 重要なことは主人公がどうやって異世界に行くかということになると、キーワードとなるのは“transported”と“reincarnated”である。すなわち、「転生」と「転移」である。しかも受動態で表現されていることから、設定上、多くの場合は自分の意志とは関係なく異世界に連れて来られる。

“a different, strange, or unfamiliar world”どんな世界かと言えば、現実とは異なる、奇妙な、未知の世界、見知らぬ世界。単に“another world”としていないところが重要。

“another world”では現実世界以外はすべて“another world”となるため、以降に形容詞で説明されている。特に最後の“unfamiliar”は非常に重要な形容詞となる。日本での「異世界」の定義は知っている世界や歴史上の世界を除き、架空の世界という設定が主流である。それ故、未来の魔法の使える世界や全く架空の世界で現実とは異なる力、魔法や超能力などが使える世界を指すことが多い。

以上、OEDの定義では3つのポイントがある。「異世界」と世界を表しているのはもちろんで

あるが、日本の「異世界もの」では転移・転生がつきものということから、キャラクターがどのように異世界にやって来るのかも含めた世界観がセットになっているのだ。

日本独特な考え方に「勇者召喚」がある。これは異世界の召喚術が使える魔法使いが別の世界から勇者を呼び出すのだ。この場合、召喚された勇者は元の世界に帰れない場合がほとんどである。西欧の場合に召喚するのは悪魔である。これは悪魔との契約などと深くかかわることになる。悪魔との関わりである。クリストファー・マーロウ『フォースタス博士』(Christopher Marlowe, *The Tragical History of Doctor Faustus*, 1592頃初演)はその代表的ともいえるものだ。フォースタス博士と悪魔・メフィストフェレスとの契約はその象徴的なものだ。この話はドイツからのフォースタフ(ファウスト)博士の伝説を劇化したものだ。「召喚」は英語表現では“summoned”となる。OEDの定義では“who is transported to or reincarnated”としていることから、この中に“summoned”を含めていることになる。さらに日本独自のものとして“reincarnated”には宗教的な文化背景もあろう。すなわち、「転生」である。日本ではもともと仏教の輪廻転生の考え方や神道の考え方により自然に聖なるものが宿るなどの考え方があり、西欧のキリスト教文化圏とは考え方が全く異なる。日本の「異世界もの」で最も特徴的なものは「異世界転生もの」と呼ばれる分野だ。これは死んだ者が異世界に転生させられるものだ。自分の意志で転生する作品もあるが、そのほとんどが自分の意志とは関係なく異世界に転生する。この転生を他人に憑依するという場合もあろう。OEDの定義は日本の「異世界もの」の設定を捉えているものとなっている。

(7) Paul Booth, editor. *Entering the Multiverse: Perspectives on Alternate Universes and Parallel Worlds* (2025)

32の論文が収められているが、32の論文の前のPaul Booth “Introduction: Perspectives on Alternate Universes and Parallel Worlds”には次のような紹介がある。

Once relegated to obscure science-fiction films or comics canon, the concept of alternate realities and parallel worlds has now portaled into the mainstream (Booth 1).

もはやこの“alternate realities”はSFというジャンルではメインのテーマになっているのだ。しかし、日本の「異世界もの」の世界観である転生という概念は含まていないようだ。

4 異世界マンガの英語版

「異世界もの」はライトノベルとして発表され、その後マンガ化され、人気が出ればさらにアニメ化されることがひとつの流れとなっている。ライトノベルの考察はここでは割愛する。

「異世界転生もの」「異世界転移もの」を代表として異世界を取り上げている「異世界もの」マンガについて、ここで英語表現という点を考慮して、2つに分類しておきたい。

パターン1 マンガのタイトルに「異世界」あるいは「転生」がついているもの。

パターン2 マンガのタイトルに「異世界」あるいは「転生」がついていないもの。

なお「転生」には「生まれ変わった」といった内容のタイトルを含める。パターン1の場合には第1に英語版になった時にタイトルをどのように表現しているか、第2に作品中ではどのような説明がなされているかに注目しておきたい。なお、下記の発表年はマンガとしての発表年である。パターン1には以下のようなものがある。

理不尽な孫の手原作／シロタカ作画『無職転生～異世界行ったら本気だす』(2014)

Mushoku Tensei: Jobless Reincarnation

伏瀬原作／川上泰樹漫画『転生したらスライムだった件』(2015)

That Time I Got Reincarnated As a Slime

蟬川夏哉原作／ヴァージニア二等兵作画『異世界居酒屋「のぶ」』(2015)

Otherworldly Izakaya "Nobu"

犬塚淳平原作／九月タカアキ漫画『異世界食堂』(2016)

Restaurant to Another World

内藤騎之介原作／剣康之作画『異世界のんびり農家』(2017)

Farming Life in Another World

野田宏原作／若松卓宏作画『異世界失格』(2019)

No Longer Allowed in Another World

朝倉一二三原作／うみハル作画『アラファー男の異世界通販生活』(2019)

The Dail Life of a Middle-Aged Online Shopper in Another World

昼熊原作／九二枝作画『自動販売機に生まれ変わった俺は迷宮を彷徨う』(2021)

Reborn As a Vending Machine, I Now Wander the Dungeon

パターン2の場合には作品中にどのような英語で「異世界」を表現しているか、あるいは「転生」等についてどのように表現しているか注目しておきたい。パターン2には以下のようなものがある。

森田季節原作／紅緒作画『スライム倒して300年、知らないうちにレベルMAXになってました』(2017)

I've Been Killing Slimes for 300 Years and Maxed Out My Level

ぶんころり原作／プレジ和尚『佐々木とピーちゃん』(2021)

Sasaki and Peeps

「異世界もの」でも転生や転移のような設定が伴わず、異界につながる扉により往来が可能となる設定ものがある。『異世界居酒屋「のぶ」』、『異世界食堂』はその典型である。従って本文中での描写も少ないことから英語表現の事例では扱わないものとする。

5 異世界の英語表現

Mushoku Tensei: Jobless Reincarnation (2014) では「第1話 もしかして：異世界」を英語版では“Could Be? An alternate universe”となっている。本編に入る前のプレリユードとして以下のような台詞がある。

I have lived a worthless life. Time and time again I've wished I could just go back and redo everything. That's why now I'm going to go and live my life to the fullest (Rifujin na Magonote prelude).

作品中には「剣と魔法の異世界」(第1話 もしかして：異世界)に対する英語表現がある。

I still have all the memories of any previous life. But here there are sword … and magic … my new life in a parallel world (Rifujin na Magonote chapter 1).

ここでは「異世界」は“parallel world”となっている。なお、転生では勇者になる設定もあるが、これまでの自分の人生をやり直すこともできるという側面がある。仕事ばかりしている自分やだらしのない自分の生活をやり直したいというテーマがあり、『無職転生』は後者の典型例でもある。

That Time I Got Reincarnated As a Slime (2015) では暴風竜ベルドラ (Verdora, the Storm Dragon) が転生者について説明する箇所がある。

So you have been reincarnated here from another world (Fuse chapter 1)?

転生者の説明がさらになされている。

We do have the occasional rebirth or traveler from elsewhere… … but never have I heard of a person from another realm being reincarnated into this world (Fuse chapter 1).

Restaurant to Another World (2016) では本文中で異世界食堂を以下のように説明している。

One day a week, it distorts space-time… …and creates several doors to other worlds, or something like that (Inuzuka 1st dish).

異世界側から食堂に来る場合には食堂が“another world”となり、食堂側からは複数の異世界につながることから“other worlds”と表現されている。

Farming Life in Another World (2017) の“Chapter 1 The Typical Relocation to Another World”「第1話 よくある異世界転移」となっている。一般的には死んだ人間が生き返る場合には転生とし、英語では“reincarnated”表現されるが、ここでは転移として“relocated”と表現されている。神は街尾火楽の人生が過酷なものになったのは神のミスだと述べていることもこの表現の原因かもしれない。

Hiraku doesn't know he suffered in life because god had messed up (Naito chapter 1)

神と街尾の会話を紹介しておきたい。

Machio Reincarnated in another world— Is that right?
God Not reincarnated. Relocated.
Machio Relocated? But, I thought I was dead?
God You are. Which is why I shall relieve you in another world (Naito chapter 1).

異世界の英語表現は“another world”となっている。

I've Been Killing Slimes for 300 Years and Maxed Out My Level (2017) でははっきりと異世界と表現せず、「来世」と表現している。社畜として働いた相沢梓（27歳）は仕事に倒れ、死後の世界で神が梓に次のように述べている。

I will ensure you live a life full of happiness in your next one (Morita chapter 1).

この作品では生き返った梓は無理をしないスローライフを過ごすことを趣旨としており、人生のやり直し生活するために「異世界」に転生している。英語の“next one”は当然のことながら“next life”という内容となる。

The Daily Life of a Middle-Aged Online Shopper in Another World (2019)の作品中でも“Perhaps this is another world?” (Asakura chapter 1)と同様に“another world”が使用されている。

No Longer Allowed in Another World (2019)ではタイトルでは“another world”を使用しているが、作品中では“different world” “another world”と表現されている。

This is a different world than the one to which you belonged. You were chosen to be transported… (Noda chapter 1)
Hen… another world (Noda chapter 1)

先生と呼ばれる文豪が異世界に来る設定について聖職者アネットが次のように説明している。

あのトラックこそがあなたをここへ導いた、「異世界当選トラック」です。元いた世界で不幸なせな人生を送る数多くの人間の中から、トラックに当たった当選者だけが、こちらの世界で人生をやり直すことができる。それが我々の世界の転送サービスです（野田 第1話）。

That is exactly what guided you here. The Isekai Jackpot Truck. Among the numerous humans in your world who live unhappy lives… a lucky few are hit by the jackpot and given the opportunity to start a new life in this world. That is the idea behind our world's transport service (Noda chapter 1).

一連のサービスは異世界転送サービス“Isekai Transport Service”であるという。作品中には次のような表現もある。

僕は今 この酔狂な異世界に、生きる意味を見つけたのだ（野田 第1話）。

I have finally discovered my reason... to live on in this bizaare foreign land (Noda chapter 1).

Sasaki and Peeps (2021)には長い副題がついている。それは“*That Time I Got Dragged into a Psychic Battle in Modern Times While Trying to Enjoy a Relaxing Life in Another World~Looks Like Magical Girls Are on Deck~*”となっており、ここでは“another world”が使用されている。異世界のヘルツ王国からインコの姿（ピーちゃん）になって転生したピエルカルロ（星の賢者）と現代のサラリーマン・佐々木がヘルツ王国へ転移して展開されるストーリーとなっている。ピエルカルロが佐々木に以下のように言う台詞がある。

I've thought about a great many things since I was exiled from the other world and received a new life in this form (Buricololi chapter 1).

異世界がヘルツ王国と限定されているため、英語では“the other world”と表現されている。

Reborn As a Vending Machine, I Now Wander the Dungeon (2021)では突っ込んで来たトラックがぶつかった自動販売機が倒れる瞬間、自動販売機を愛する青年がこれを防ごうとしたが、自動販売機を守って死ぬ。

But isn't it just a little bit out there... ..to get reincarnated as one (Hirukuma chapter 1)?

この事例はかなり特殊で、自動販売機に転生する設定になっているのである。

I'll have to accept I'm no longer human but a vending machine. There's a lot I can't do... ..but there must be something I can only do as a vending machine (Hirukuma chapter 1)!

.....

In what world can I not control a vending machine? Believe in the vending machine! Become the vending machine! Understand your body (Hirukuma chapter 1).

英語表現では作品中に“isekai”の表現がみられたのは1作品だけであった。

エピソード

SFやファンタジーでは「改変世界」(alternative world)、「改変歴史」(alternative history)などのジャンルがある。「タイムトラベル」(time travel)もこうしたジャンルに含めている場合や別のジャンルとして設定している場合もある。しかし、登場人物がこうした世界にどのように入り込むのかまで含めた世界観を表す表現にはなっていない。「タイムトラベル」は登場人物が現在から過去又は未来、未来から現在に移動することまでを含んでいるが、日本の「異世界もの」は死んだ人間がこれまでにない全くの架空の世界に蘇る「異世界転生もの」が最大の特徴と

なろう。この発想は日本独自のものである。この独自の「異世界もの」を英語ではどう表現するのか。これまでのリサーチではOED (2024)の“isekai”だけは転生、転移の概念まで含んでいる。「異世界もの」の英語版マンガでは“another world”が主流であり、“reincarnation” “reincarnated” が説明として使用されているものもあるが、日本の「異世界もの」全体を説明するものではない。筆者の調査では英訳版マンガで“isekai”が使用されたのは『異世界失格』(No Longer Allowed in Another World) だけであった。これはOEDの掲載に先立つものだ。今後、英語“isekai”がどの程度普及するののかも注目していきたい。

テキスト

マンガのテキストでは頁表記がないものが多く、本文中ではある程度特定できるように、章等をカッコ内に示した。

理不尽な孫の手原作 (2024). フジカワユカ。『無職転生 異世界行ったら本気だす』、第1巻、KADOKAWA。

Asakura, Hifumi, story (2023). Yamakwa, Umiharu, art. *The Dail Life of a Middle-Aged Online Shopper in Another World*. Volume 1. Manga Up!/Kindle.

Buncololi, Original story (2021). Pureji Osho, art. Prowse, Alice, translator. *Sasaki and Peeps*. Volume One, Yen Press.

Fuse, creator (2017). Kawakami, Taiki, art. *That Time I Got Reincarnated As a Slime*. Volume 1. Kodansha Comics.

Hirukuma, original story (2021). Kunieda, art. *Reborn As a Vending Machine, I Now Wander the Dungeon*. Volume 1. Yen Press.

Inuzuka, Junpei (2020). Haley, Amanda, translator. *Restaurant to Another World*. Volume One, Yen Press.

Naito, Kinosuke, story (2018). Tsurugi, Yasuyuki, art. *Farming Life in Another World*. Volume 1. One Peace Books.

Noda, Hiroshi, story (2022). Wakamatsu, Takahiro, art. *No Longer Allowed in Another World*. Volume 1. Seven Seas Entertainment.

Morita, Kisetsu, original story (2020). *I've Been Killing Slimes for 300 Years and Maxed Out My Level*. Volume 1. Yen Press.

Rifujin na Magonote, story (2015). Fujikawa, Yuka, art. *Mushoku Tensei: jobless reincarnation*. Volume One, Media Factory.

※マンガ本では頁表記のないものもあるため、頁の代わりにchapter等を明記した。

注

(1) ピクシブ百科事典「異世界」

<https://dic.pixiv.net/a/%E7%95%B0%E4%B8%96%E7%95%8C> Accessed 17 Jan.2025.

(2) 「ガイドライン 異世界転生・転移のキーワード設定に関して」

<https://syosetu.com/site/isekaikeyword/> Accessed 17 Jan. 2025.

(3) "Uchronia: The Alternate History List"

<https://www.uchronia.net/intro.html> Accessed 26 Apr. 2025.

(4) Oxford English Dictionary "isekai"

https://www.oed.com/dictionary/isekai_n?tl=true Accessed 9 Feb. 2025.

引証資料

- 井辻朱美 (2013). 「ファンタジー—拡張現実への流れの中で」、白井澄子・笹田裕子編、『英米児童文化 55のキーワード』、ミネルヴァ書房。
- 井上乃武 (2009). 「ライトノベルと児童文学の「あいだ」—「主体性」の問題をめぐる」、一柳廣孝・久米依子編、『ライトノベル研究序説』、青弓社。
- 榎本秋編a (2019). 『異世界ファンタジーの創作事典』、秀和システム。
- 榎本秋編b (2022). 『異世界ファンタジーのポイント75』、物語づくりのための黄金パターン世界観設定編②、DBジャパン。
- 内田忠賢 (1999). 「異界」、福田アジオ他編、『日本民俗大辞典』、上、吉川弘文館。
- 株式会社ライフ (2021). 『現代における幻想世界の新たな潮流と源を知る 現代異世界ファンタジーの基礎知識』、カンゼン。
- クルート、ジョン (1998). 高橋良平日本語監修、『SF大百科事典』、グラフィック社。
- 佐々木隆a (2025). 「「異世界」を考える」、『むらおさ』、第42号、むらおさ同人会。
- 佐々木隆b (2025). 「「異世界」を巡って：ライトノベルを意識して」、『ポップカルチャー・若者文化研究』、第21号、ポップカルチャー・若者文化研究会。
- 佐々木隆c (2025). 「英語になった「異世界」」、『日欧比較文化研究』、第29号、日欧比較文化研究会。
- 健部伸明 (2022). 『ファンタジー&異世界用語事典』、日本文芸社。
- 中野節子・水井雅子・吉井紀子編 (2009). 『ファンタジーの生まれるまで』、JULA出版局。
- 那須正幹 (1975). 『屋根裏の遠い旅』、偕成社。
- 野田宏原作 (2020). 若松卓宏作画、『異世界失格』、第1巻、小学館。
- 山北篤 (2017). 『現代知識チートマニュアル』、新紀元社。
- ロッテンシュタイナー、F (1979). 村田薫訳、『ファンタジー【幻想文学館】』、創林社。
- Booth, Paul (2025). "Introduction: Perspectives on Alternate Universes and Parallel Worlds", Booth, Paul, editor. *Entering the Multiverse: Perspectives on Alternate Universes and Parallel Worlds*. Routledge.
- Clute, John (1995). *Science Fiction: The Illustrated Encyclopedia*. Macmillan Canada.
- Kincaid, Paul (2005). "time travel." Gary Westfahl, editor. *The Greenwood Encyclopedia of Science Fiction and Fantasy: Themes, Works, and Wonders*. Volume 2, Greenwood Press.
- Murfin, Ross and Ray, Supryia M (2003). *The Bedford Glossary of Critical and Literary Terms*. Bedford/St. Martin's.
- Prucher, Jeffrey, editor (2007). *Brave New Words: The Oxford Dictionary of Science Fiction*. Oxford University Press on Demand.
- Rottenstienier, Franz (1978). *The Fantasy Book: The Ghostly, the Gothic, the Magical, the Unreal*. Thames and Hudson.
- Stableford, Brian (2005). *Historical Dictionary of Fantasy Literature*. The Scarecrow Press.